

氏名	善生 まり子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	老年看護学、地域看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	1991年北里大学看護学部、2001年北里大学大学院 看護学研究科 健康看護学、2011年同左、看護生涯教育学在籍中				
経歴	2001年埼玉県立大学看護学科 助手、2005年埼玉県立大学 看護学科 講師、2014年埼玉県立大学 看護学科 准教授				
所属学会(役職)	日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本保健医療福祉連携教育学会、日本認知症ケア学会、埼玉県立大学保健医療福祉学会				

【2015年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
(2) 論文					
1	高齢者における地域医療サービスに係る意識調査 家族構成、性別、年齢から見えてくる相違点	共著	保健医療福祉科学、5、P1-10	善生まり子、久保田亮、菅野康二、戸田肇	2016年3月
2	在宅支援力の深化をめざした看護職の専門職連携実践(IPW)促進のためのアクションリサーチ(その2)—退院支援における多職種カンファレンス—	共著	地域ケアリング、18(2)、P65-67	善生まり子、菅野康二、戸田肇、久保田亮	2016年2月
3	在宅支援力の深化をめざした看護職の専門職連携実践(IPW)促進のためのアクションリサーチ—多分野の研究者による共同アプローチ—	共著	地域ケアリング、17(4)、P104-109	善生まり子、菅野康二、戸田肇、久保田亮	2015年12月
(3) 学会発表					
1	在宅移行を円滑にする専門職連携のあり方—退院調整看護師による退院支援カンファレンスの内容分析—	共著	日本看護科学学会学術集会講演集35th、P679、広島市	○善生まり子、戸田肇、菅野康二、久保田亮	2015年11月
2	A strategy for increasing cultural competency in nursing students through inter-professional education	共著	International Forum on Quality and Safety in Healthcare Asia、香港国際会議場	○Hiromi Nakamura, Justina Liu, Yuriko Nozaki, Toshie Fukushima, Pin Pin Cho, Mariko Zensho	2015年9月
3	骨粗鬆症と転倒の予防教室における栄養指導の効果	共著	Osteoporosis Jpn、23、P265	○藤縄理、善生まり子(8人中5番目)	2015年8月
4	看護学生との世代間交流を体験した地域高齢者の思い	共著	日本老年看護学会学術集会抄録集20th、P220	○張平平、善生まり子(7人中3番目)	2015年6月
5	地域高齢者との世代間交流を体験した看護学生の学び	共著	日本老年看護学会学術集会抄録集20th、P221	○林裕栄、善生まり子(7人中3番目)	2015年6月
6	地域住民主体で運営している骨粗鬆症と転倒の予防教室参加者と一般住民の骨密度と体力の比較	共著	日本理学療法学術大会(Web) 50th、P O-0084	○藤縄理、善生まり子(8人中5番目)	2015年6月
(4) その他					
1	該当なし				

2. 競争的資金等の研究		
競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	在宅支援力の深化をめざした看護職IPW促進のためのアクションリサーチ、研究代表者	2015年4月～2106年3月
2 埼玉県立大学奨励研究:学長指定研究	住民主体の骨粗鬆症と転倒の予防教室に対する行政と連携した支援の短期的効果と長期的効果の検討、研究分担者	2015年4月～2106年3月
3. 教育業績		
講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義		
1 老年看護学Ⅲ	2016年1月	医療や介護に係る社会保障制度設計の変化と地域包括ケアシステムの推進等の社会背景をもとに、高齢者の療養生活の場の選択・意思決定について、病院や福祉施設など(実習施設)の「施設内」から「地域」へと視野を広げて看護職の支援のあり方を考えられるように授業設計を行った。
2 スタートアップセミナー	2015年4月～7月	初年次科目運営において、科目責任者および担当者参加の会議に出席し、授業内容のリフレクションを行うと共に、授業運営においては、1年次生および看護学科3年次編入生の履修が円滑にまた有意義になるよう、各回でファシリテーター役を担った。
3		
(2) 演習		
1 老年看護学Ⅱ	2015年4月～7月	看護実践におけるリフレクションの意義や目的を理解するため、高齢者の移動援助に関する演習内容をもとに実践的な授業運営を行った。高齢者が活性化する清潔の援助の演習では、脳卒中で回復期リハビリテーション病棟へ入院している高齢事例を想定して役割を明確にしてベストな「手浴」を選択・実践し、リフレクションにより全体共有を図った。
(3) 実習		
1 老年看護学実習Ⅰ	2015年4月～6月	老人福祉センターを利用する健康で元気な高齢者とのコミュニケーションをもとに、高齢者観を養い、加齢に伴う高齢者の身体機能および不顕性の症状等に関する知識を深め、健康増進および疾病予防に係る高齢者への看護を考えられるように、実習施設の指導者および看護職と連携を図った。
2 老年看護学実習Ⅱ	2015年11月～12月	医療機関の障害者病棟において、高齢な重度要介護者(以下、高齢患者)への日常生活援助、高齢患者にとって心地よい療養環境を整えること、退院支援における家族の療養の場の選択・意思決定を支えることの実践等を学べるように、実習施設の指導者と連携し、介護福祉士、理学療法士、作業療法士等の多職種協働の学びの場面を積極的に設定した。
3 総合実習	2015年4月～8月	4月よりゼミ形式にて、地区踏査のための情報収集および分析、地域医療における診療所の機能とそこで働く看護職の役割等に関する文献検討を行い、同時に各学生の自己の学習目標の明確化を図った。診療所における3週間の実習プログラムにおいて、各学生の個別の実習目標にそって、診療所看護師の地域の健康問題、支援ニーズの明確化、多機関・多職種協働の実践等を体験しリフレクションできるよう実習施設の指導者と連携を図った。

(4)論文指導				
1	卒業研究	2015年4月～2016年1月	卒業研究はゼミと個別指導を組み合わせテーマ設定、研究フィールド調整、研究計画書の倫理審査申請、データ収集・解析および、論文指導を行った。以下、学生の卒業研究課題名である。 ・運動習慣のある高齢者の介護予防に対する意識の特徴―活動期間の差による比較― ・介護の経験が高齢者のセルフケア認識に与える影響―予防教室参加者への調査― ・高齢者の描く看護師のイメージ―予防教室の参加者から得た考察― ・高齢者の認知症に関するイメージと予防の意識―予防教室の参加者を対象に―	
(5)その他				
1	本学大学院(博士前期課程)論文副査	2015年2月	リハビリテーション学院生1名の副査を担った。	
4. 社会貢献活動				
(1)講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	平成27年度看護学生実習指導者講習会	公益社団法人 埼玉県看護協会	老年看護学実習の展開	2015年6月
2	平成27年度専門職連携ベーシック講座	公立大学法人 埼玉県立大学	「リフレクション」を通じて自己とチームワークを俯瞰する	2015年11月
3	高校出張講座	東京都立江戸川高校	看護師を志す高校生のための看護学入門	2015年7月
(2)国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	社会福祉法人インクルふじ 生活介護事業所であら〜と	第3者委員	2015年4月～2106年3月	
2	北里大学同窓会埼玉県支部	理事	2015年4月～2106年4月	
3	公益社団法人 埼玉県看護協会9支部	教育委員	2015年4月～2106年5月	
(3)ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
5. 学内運営(委員会委員)				
1	看護学科委員:教務運営部会員補助			
2	看護学科委員:カリキュラム運営検討会(リーダー)			
3	看護学科委員:保健師助産師関連科目履修者選考委員			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	平成27年度保健師及び助産師関連科目履修者選考実施要領を作成した。			
2	平成27年度専門職連携ベーシック講座テキストを共著(4名)で作成した。			
3	平成27年度ホームカミングデー(看護学科)を担当した。平成27年6月。			
4	平成27年度看護学教育ワークショップ テーマ「10年後を見据えた看護学教育の質改善の取り組み～臨地実習の質保証に焦点をあてて～」(平成27年10月)(主催:千葉大学大学院看護学研究科、看護学教育研究共同利用拠点 千葉大学大学院看護学研究科 附属看護実践研究指導センター)に参加し、その研修成果を本学看護学科FD「看護学実習の質保証に関する課題の共有」(平成28年3月開催)企画運営に寄与した。			
5	平成27年度老年看護学領域 臨床実習指導者会議(平成28年3月)の企画運営に参加した。			